

## ある DVD との出会い

私の大先輩から会社に遊びに来ないかと言われ、訪問して色んな材木の過去の事を教えて頂きました。私が何時も教えを請う、大先輩は、マレーシアのサンダカンに赴任して日本に南洋材のラワン材を主に輸入する為の仕事をしていました。その昔のマレーシアの話をしていたら一本の DVD を是非、『服部君貸してあげるから是非見て下さい。』と言われ見せて頂きました。それが南條康一さんと言う方の DVD でした。



その中身は昔の八ミリビデオに納めた南洋材・北米材の日本に本格的に輸入される1950年頃からの事を、現代のビデオに再編集したものです。その中身は凄く感動するものでした。

一部を私流にご説明すると日本の高度経済成長【池田内閣の所得倍増計画～東京オリンピック、大阪の万国博覧会の時代】を支えたのは、フィリピン・マレーシア・インドネシア・カナダを含む北米大陸の木材資源だったということです。あの時代建売り住宅が日本中に建てられました。使われた内装材は主にラワン材、構造材の柱は米ツガ（ヘム）でした。

そのラワン材を輸出する為の、フィリピン等の国民の凄く血の出る努力はこの DVD を見て頂ければ解かって頂けると思います。又この DVD の後半は北米針葉樹の製材品を日本に最初に輸入した当時の木材に携わった人たちの苦労等が載っています。凄く貴重な内容です。

我々が今日幸せに生活させて頂けるのも、フィリピン・マレーシア・インドネシアの原住民の助けと材木屋の大先輩達の血の出る努力が有っての事だと思います。

**【この DVD は大変貴重な物です。もし見せて欲しいと言う希望があればレンタルします。別紙アンケートを用意しております。】**

# 本当に試される材木屋

先の記事の延長ですが、本当に優良材だけが、枯渇するのではなく、木材資源その物が大変入手困難になってきています。その理由は、経済発展途上の国の石油・木材等の積極的な輸入に原因があります。しかし本当はそれ以外の問題が裏に隠れているのです。それを一つの事から簡単に説明します。具体的にはラワン材を例にします。

1950年頃からラワン材はフィリピンから日本に積極的に輸入され始めましたが、当時の日本人の好んだ材質の原木が最初から入ったのではなかったのです。凄く硬いラワン材もありました。そして日本人に凄く好まれる柔らかい木味のラワン材もありました。色んな性質を持ったラワン材が輸入されていたのです。皆さん良く考えて下さい。色んな性質を持ったラワン材が、当時見事に使い分けられてきたのです。それは、当時の建売り住宅だけでなく、注文住宅、学校等の公共物件、ビルの内装にも見事に使い分けられていたのです。

ラワン材は、今の日本人の好みの材質の木ではないですが、今の日本人に好まれる材質の木は例えばウォールナットとかチェリーとかはつきり色目の有る樹種だと思いますが、ウォールナットにしてもチェリーにしても色んな産地があります。そして産地によっては**木材の欠点**が大変違う場合があります。又ラワン材と違い「節」等の欠点の問題もあります。従って材木を扱っている我々一人一人が、使う用途、使い方を間違えずにする必要があります。しかし現在の材木流通で昔のラワン材と同じ様に仕訳され、マーケットで使いこなされるか本当に危惧しています。

その危惧している理由は、今の材木屋に本当に木を見る目が有るのか凄く心配しているからです。それが本当に試される材木屋と言う私の思いの表れです。

材木の流通形態の変更が、日本人全体にマイナスを与えていると私は思っています。材木屋の仕事は『木を見る事が主な役目』です。材木の流通形態は最初原木の輸入から始まって、木材輸出の雇用問題の解消の為の原木の輸出制限、それが製材品そして加工品と変わってきたのです。その流通形態の変更が材木を扱っている我々の本来の仕事『木を見る事が主な役目』をなくしたのです。その事が我々材木屋の能力の低下を招いていると私は常々思っています。又それを端的に現しているのが現在の建築物だとも思います。

高度経済成長の時代に建設された建売り住宅と今の建売り住宅をあくまで材木屋の目で見ただけの場合、昔の建売り住宅の方がまだ家『本当の木の家』に近いと思っていますからです。先ほどの記事にも書きましたが、昔の建売り住宅はそこそこ木を使っていました。しかし今の建売り住宅は殆どと言って可笑しくない位、木は使っていません。またそれ以上に良くないのは、木の顔をした**建材（通称：ラッピング材）**を多用し、一見、**木で出来ていると間違えるような表情をしているのです**。本当にそう言う物を多用して良いのでしょうか。原点に戻って考え直す時期に来ていると思います。

**ラッピング材：MDF（木質繊維板）をモールドイングしその上に塩化ビニールを張ってある商品です。その商品は現場で切るだけで施工できるが、温かみが無く、石油を多用しているので地球温暖化に繋がり、又火災の時有毒ガスを大量に発生し、又水にも弱い。福田総理が仰っている200年住宅の観点からも背く商品です。**

これからの時代は木材の品質を見極め、その色んな特徴を生かしたものの作りをしなければならぬ時代に入ったと思います。凄く良い産地の木を追い求めるのではなく、自然の授かり物の循環型の典型的木材資源を有効に活用したら地球温暖化対策に必ず結びつくと思います。

## ありがとう日高山脈

先月の12月14日の夕方から12月16日の夕方まで北海道日高地方の札幌地方木材協同組合主催の銘木市の下見に行ってきました。私が初めて北海道に行ったのは中学三年生（15歳）の夏休みでした。その頃の思い出は残ってはいませんが、それから10年経って25歳の時、服部商店に入社しました。そのとき亡き父親と一緒に北海道によく行きましたが、その頃の北海道産広葉樹の原木の量、品質はよく覚えています。良材が山の様に積んで有りました。それが僅か25年で良材がなくなってしまった事を、寂しく思い又もっと木材を大事にする商売を心がけていたら、違った意味の服部商店になったのではと反省もしています。

今年50歳に私はなりますが、25年間で北海道の優良木材資源は殆ど枯渇してしまったと、今回の出張で思いました。又今回の出張で大変意義有る事も聞いてきました。

私の亡き父親を慕ってくれていた、北海道の仕入先の担当者と話す機会があったのですが、優良広葉樹の立ち木はまだ有ります。しかしそれを伐採したら、生態系を完全に破壊する事に繋がるのですが、何年も前から計画伐採を始めているので、マーケットに出される広葉樹原木がゼロにはならないと仰っていました。

計画伐採の方法とは、森林の中で**親木**になる素晴らしい立ち木の周辺を保安林に指定し、その周りの若い立ち木が大きくなって来るのを待ちながら、計画的に森林を育成しようとしている事です。完全にアメリカ・ヨーロッパ式に計画伐採が定着するのになくとも50～100年は掛かるかも知れませんが世界一の品質の日本産広葉樹資源が全く無くなる事は無いと言う事です。



【日高沿線の広葉樹伐採量は本年は昨年比約50%以上減の数量でした。】札幌地方木材土場

## アメリカ広葉樹とロシア産広葉樹

アメリカ産広葉樹は日本国内の広葉樹資源と違い、完全な計画伐採を昔から実行しているので、資源量は日本と比較するべくもなく圧倒的な蓄積量を待っています。しかし服部新聞第21号で取り上げましたが、使い勝手は必ずしも良くはありません。しかし無いものねだりでは、商売になりません。従って量の有るアメリカ広葉樹に以前よりまして取り組む必要が有ります。

しかしアメリカ並みに広葉樹の蓄積量有るロシア産広葉樹は、先々どうなるかはまだはっきり言って解りません。ロシア政府は2009年1月から原木の輸出関税を現行の20%から80%に上げると言っていますが、我々中小零細企業の材木屋には詳しい情報が入ってきません。仮に80%の関税が実施されたときは、事実上日本国内でロシア産の原木を製材する事は不可能になります。そして多分ロシア産の製材品として近々に輸入されると思います。其の時に日本人の指導を受ける製材工場の製材品が輸入されれば大きな影響は出ないと思いますが、ロシア政府が何を考え、どう行動してくるかはっきり解らない所にこの問題の本質があると思います。石油資源で潤っているロシアが、マレーシア等の製材工場と同じように日本人の教えを請うよりアメリカ式の言わば効率一辺倒の製材工場を運営すれば、多少とも、日本の国内のマーケットは混乱するでしょう。

現在建築基準法改正の為に日本国内の住宅のマーケットは大変冷え込んでいます。それで需要と供給のマーケットのバランスが取れています。しかし建築基準法改正の影響が収束し落ち着いた状況になった時は、凄く混乱が予想されます。需給バランスにおいて石油同様圧倒的に供給側が凄く強いからです。

## 本当の差別化とは何か



上記の写真は小生の家のバルコニーの写真です。バルコニーのコンクリートが、歩くと『ベコベコ』と音が鳴るのでコンクリートを割って調べて頂きました。すると上記写真を見て頂ければ解るように、防水が立ち上がりの上まで施工されていないのです。私の家は大手ハウスメーカーの大建ホームのツーバイフォーの家ですが、これを手抜きか、それとも立ち上がりまで防水処理をするのを忘れたのかを、はっきりさせるつもりは全くございません。又ははっきりさせたから、賠償してくれるかとも思いません。私が残念に思うのは、当たり前の事を当たり前にして欲しい、それだけです。それが差別化した家作りでは、ないでしょうか。

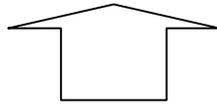
ところで今回の改修を大建ホームにお願いしていたらこの事は、発見しても多分私に悟られないように上手く改修してたでしょう。しかしこの仕事を私の懇意にしている工務店さんに見て頂いたからこそ発見出来たと思います。

**【消費者目線で見ると差別化した住まい作りとは、当たり前の事を当たり前にする。これが本当の住まい作りであると思います。】**

## 服部商店勉強会のお知らせ

来る2008年2月2日(土曜日)の午前10時から服部商店本社にて第三回勉強会を開催します。今回は大阪市港区の藤本木工所の藤本増夫社長が主催される樹望塾とジョイントで行います。

今回は内地材のケヤキの原木を製材するところを見て頂きます。新年号でお知らせ致しましたが、今回は藤本社長の依頼『材木屋の服部さんを見せて下さい』が有り、急遽決まった事をお許し頂けるよう御願致します。



## 緊急アンケート

**FAX番号072-422-8577**

# 勉強会開催のご案内

今回は大阪市港区の藤本木工所の社長様が主催されている樹望塾とジョイントにて行います。建築士以外の方も多数参加されると聞いております。

Q1、 服部商店第三回勉強会（原木の製材）の催しを平成20年2月2日の午前10時より行います。

参加できる方は、ご連絡下さい。

はい  いいえ

Q2、 Q1ではいとお答えした方に。

参加される人数を御知らせ下さい。

\_\_\_\_\_名

Q3、 南條康一さんのDVDをレンタルします。

見たい方はお知らせ下さい。

はい  いいえ

御社名	
ご担当者名	
電話番号	
〒 ご住所	

株式会社 服部商店  
大阪府岸和田市木材町16-1  
TEL 072-438-0173  
FAX 072-422-8577  
担当 服部雅章